

1. 媒体作成条件

項番	項 目	内 容						
1	作 成 単 位	同一料金月、同一支払期限でお客さま単位（会社コード単位）						
2	フォーマット形式	3. 5インチFD				CD-R	MO	
		2 H D		2 D D				
		1. 25MB	1. 44MB	640KB	720KB	650MB	128MB	
3	標準最大出力件数 （圧縮希望時）	1, 800 レコード [*] (14, 400)	2, 200 レコード [*] (17, 600)	1, 000 レコード [*] (8, 000)	1, 000 レコード [*] (8, 000)	—	—	
4	使 用 コ ー ド	J I S 漢字コード：シフトJ I S						
5	レ コ ー ド 長	可変長（復帰改行コードが追加されます）						
6	フ ァ イ ル 形 式	テキスト形式・項目名付CSV (1枚に収容しきれない場合は、同一ファイル名で複数枚作成します。)						

注：項目名付CSV形式とは、レコードの先頭に項目名のみの項目名レコードを編集しその後ろにデータレコードを編集する形式です。レコードの編集形式は、以下のとおりとなっています。

- (1) 項目と項目の間をカンマ（,）で区切ります。
- (2) 1レコードの最終項目編集後、復帰改行（C R L F）を付加します。
- (3) 数値項目（件数・金額等）以外の場合は、そのデータをダブルクオート（" "）で囲みます。
（例："A B C D"）
- (4) 数値項目（件数・金額）以外の場合で、データが省略されている場合は半角のスペースを編集し、ダブルクオートで囲みます。（例：" "）
- (5) 数値項目の場合は、有効数字のみ編集します。
※有効数字の編集に伴い、仕様書上の桁数と異なる場合があります。
- (6) 数値項目の場合で、データが省略されている場合は、半角のゼロのみ編集します。
（例：..., 0, ...）
- (7) 標準最大出力件数は、記録媒体への収容方法により変動します。

<圧縮について>

お客さま提供データの圧縮希望時は、フリーソフトウェアの「高圧圧縮書庫管理プログラムLHA」を使用し、自己解凍形式（プログラム形式）で圧縮します。

圧縮したデータの解凍手順

- ① パソコンのハードディスクにコピーする。
 - ② ファイルを実行する。
- 以上で圧縮したデータが自動解凍されます。

2. ファイル仕様

(1) 作成するファイル

ファイル名称	ファイル名
管理ファイル	W00000001. CSV
国際番号別内訳ファイル	W00000011. CSV
請求書作成番号合計ファイル	W00000051. CSV
会社合計ファイル	W00000091. CSV

注1：記録媒体2枚以上にまたがるファイルは、国際回線番号別内訳ファイルのみです。

注2：作成するファイル名の構成

$\frac{W}{*1}$
 $\frac{000000}{*2}$
 $\frac{xx}{*3}$
 $\frac{. CSV}{*4}$

- *1 「W」：国際サービス番号別明細内訳書の表示
- *2 弊社が付与するお客さま識別コード（数字5桁）
- *3 xx：データ種類（圧縮の場合は記録媒体作成通番01～99）
- *4 CSV：ファイル拡張子（圧縮の場合は「exe」）

- ・圧縮の場合は、xxに記録媒体作成通番01～99、ファイル拡張子「exe」のファイルを作成しますが、自動解凍後に上記のとりのファイルになります。
- ・圧縮ファイルが複数枚となった場合に同じフォルダ内で解凍すると、国際回線番号別内訳ファイルは1枚目からN枚目が全て同じファイル名で解凍されますので、後から解凍したファイルで上書きされます。複数枚になった場合は、フォルダを変えて解凍して下さい。

(2) 収容方法

① 1枚目

管理ファイル、請求書作成番号合計ファイル、会社合計ファイルを収容してから、国際番号別内訳ファイルを収容件数が、最大出力件数（記録媒体のフォーマット形式毎に定めた、記録媒体に収容可能な最大件数）になるまで収容します。

② 2枚目以降

1枚目に収容しきれなかった場合、残りの国際番号別内訳ファイルを2枚目以降の記録媒体に順次収容します。最大99枚まで収容可能です。

※項目名レコードについては、作成しません。

3. ファイル構成

●管理ファイル

--

●国際番号別内訳ファイル（国際回線番号別の内訳レコードで構成）

国際回線番号別内訳 レコード 1 番目	国際回線番号別内訳 レコード 2 1 番目	~	国際回線番号別内訳 レコード 2 N 番目	国際回線番号別内訳 レコード 1 番目	国際回線番号別内訳 レコード 2 1 番目	~	国際回線番号別内訳 レコード 2 N 番目	~	国際回線番号別内訳 レコード 1 番目	国際回線番号別内訳 レコード 2 1 番目	~	国際回線番号別内訳 レコード 2 N 番目
国際回線番号 1 番目				国際回線番号 2 番目				国際回線番号 N 番目				

1. 同一電番の情報が、「国際回線番号別内訳レコード」に収まらない時、オーバー分を「国際回線番号別内訳レコード 2」として格納する。
2. 又、「国際回線番号別内訳レコード 2」は複数レコード存在する場合があります、「国際回線番号別内訳レコード」から「レコード N O」をシーケンスで付与する。
3. 請求書作成番号合計レコードも上記と同様の構成となる。

●請求書作成番号合計ファイル（請求書作成番号別の内訳レコードで構成）

請求書作成番号 合計レコード 1 番目	請求書作成番号 合計レコード 2 1 番目	~	請求書作成番号 合計レコード 2 N 番目	請求書作成番号 合計レコード 1 番目	請求書作成番号 合計レコード 2 1 番目	~	請求書作成番号 合計レコード 2 N 番目	~	請求書作成番号 合計レコード 1 番目	請求書作成番号 合計レコード 2 1 番目	~	請求書作成番号 合計レコード 2 N 番目
請求書作成番号 1 番目				請求書作成番号 2 番目				請求書作成番号 N 番目				

●会社合計ファイル

--

4. レコード構成

(1) 管理レコード

会社コード	データ種類	年月群	媒体通番	網種別	媒体識別	請求回数	詳細群
5	2	7	2	8	3	1	1

(2) 国際回線番号別内訳レコード

国際回線番号	定期分割区分	データ種類	レコードNO	レコード数	ご請求番号	部課別コード	減算不能区分	国際サービス種類	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	国際通話料等初日	国際通話料等末日	検針日前回	検針日今回	予備
10	1	2	2	2	10	6	8	36	4	4	4	4	4	4	10

国際通話料・今月分	ご請求金額	請求内訳 1								請求内訳 2、請求内訳 16	請求内訳 17※								年月群
		利用会社 1	内訳コード 1	請求内訳コード 1	請求内訳名 1	再掲表示 1	内訳金額 1	残回数 1	税区分 1		利用会社 17	内訳コード 17	請求内訳コード 17	請求内訳名 17	再掲表示 17	内訳金額 17	残回数 17	税区分 17	
10	10	30	3	4	36	6	10	3	20	1680	30	3	4	36	6	10	3	20	7

※ 請求内訳は、1レコード最大17内訳まで収容します。同一回線番号で18内訳以上の請求内訳がある場合、18内訳目以降は、第2レコード以降に収容します。

(3) 国際回線番号別内訳レコード2

国際回線番号	定期分割区分	データ種類	レコードNO	レコード数	ご請求番号	部課別コード	減算不能区分	国際サービス種類	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	国際通話料等初日	国際通話料等末日	検針日前回	検針日今回	予備
10	1	2	2	2	10	6	8	36	4	4	4	4	4	4	10

国際通話料・今月分	ご請求金額	請求内訳1								請求内訳2〜請求内訳16	請求内訳17※								年月群
		利用会社1	内訳コード1	請求内訳コード1	請求内訳名1	再掲表示1	内訳金額1	残回数1	税区分1		利用会社17	内訳コード17	請求内訳コード17	請求内訳名17	再掲表示17	内訳金額17	残回数17	税区分17	
10	10	30	3	4	36	6	10	3	20	1680	30	3	4	36	6	10	3	20	7

※ 同一回線番号で、請求内訳数が35内訳以上ある場合、第3レコード以降に収容します。第3レコード以降のレコードフォーマットおよびレコード内容については、第2レコードと同一となります。

(4) 請求書作成番号合計レコード

ご請求番号	データ種類	レコードNO	レコード数	部課別コード	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	国際通話料等初日	国際通話料等末日	検針日前回	検針日今回	予備	国際通話料・今月分	請求合計金額	請求件数	金融機関コード	口座番号
10	2	2	2	6	4	4	4	4	4	4	10	10	10	8	7	8

口座名義	送付先名	請求内訳 1								請求内訳 2、請求内訳 1 6	請求内訳 1 7								年月群
		利用会社 1	内訳コード 1	請求内訳コード 1	請求内訳名 1	再掲表示 1	内訳金額 1	残回数 1	税区分 1		利用会社 1 7	内訳コード 1 7	請求内訳コード 1 7	請求内訳名 1 7	再掲表示 1 7	内訳金額 1 7	残回数 1 7	税区分 1 7	
40	40	30	3	4	36	6	10	3	20	1680	30	3	4	36	6	10	3	20	7

(5) 請求書作成番号合計レコード2

ご請求番号	データ種類	レコードNO	レコード数	部課別コード	ご利用期間基本料等初日	ご利用期間基本料等末日	国際通話料等初日	国際通話料等末日	検針日前回	検針日今回	予備	国際通話料・今月分	請求合計金額	請求件数	金融機関コード	口座番号
	[51]															
10	2	2	2	6	4	4	4	4	4	4	10	10	10	8	7	8

口座名義	送付先名	請求内訳1								請求内訳2、請求内訳16	請求内訳17※								年月群
		利用会社1	内訳コード1	請求内訳コード1	請求内訳名1	再掲表示1	内訳金額1	残回数1	税区分1		利用会社17	内訳コード17	請求内訳コード17	請求内訳名17	再掲表示17	内訳金額17	残回数17	税区分17	
40	40	30	3	4	36	6	10	3	20	1680	30	3	4	36	6	10	3	20	7

※ 同一請求番号で、請求内訳数が18内訳以上ある場合、第3レコード以降に収容します。第3レコード以降のレコードフォーマットおよびレコード内容については、第2レコードと同一となります。

(6) 会社合計レコード

会社コード	データ種類	会社合計請求額	会社合計請求件数	年月群
5	2	12	8	7

5. レコード内容

(1) 管理レコード

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	会 社 コ ー ド	文字	5	弊社がお客さま単位に設定した番号 例: "30009"
2	デ ー タ 種 類	文字	2	"01"を設定
3	年 月 群	文字	7	請求年月群を設定 (年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6) 例: 平成13年8月C群の場合→"2001083" (コード表「項番5、料金群・詳細群」参照)
4	媒 体 通 番	文字	2	"01"を設定
5	網 種 別	文字	8	"国際"を設定
6	媒 体 識 別	文字	3	出力媒体を設定 FD … "FD" MO … "MO" CD-R … "CDR" ビリングステーション(注1)をご契約の場合 … "BS"
7	請 求 回 数	文字	1	同一請求番号で、同一期別内に請求書を発行した回数 (料金群変更時等) * 再発行は対象外 * 回数は0から起算
8	詳 細 群	文字	1	詳細群を"A"～"V"、"0"～"9"で設定 (コード表「項番5、料金群・詳細群」参照)

(注1) : ビリングステーションとは、電話等サービスの「料金・通話明細データ」を
専用 Web サーバーからダウンロードできるオンラインサービスです。

(2) 国際回線番号別内訳レコード

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	国 際 回 線 番 号	文字	10	国際回線番号を設定（英数字混在での設定もあり） （項番5「国際回線番号について」を参照） 例：“100012301”、“1000123AB”
2	定 期 分 割 区 分	文字	1	“0”を設定
3	デ ー タ 種 類	文字	2	“11”を設定
4	レ コ ー ド N O	文字	2	同一回線番号でのレコードNoを設定
5	レ コ ー ド 数	文字	2	同一回線番号でのレコード数を設定
6	ご 請 求 番 号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例：“0123456789”
7	部 課 別 コ ー ド	文字	6	お客様がご契約番号単位に設定した部課別コード 設定ありの場合：“000001”～“999999”を設定 設定なしの場合：“000000”を設定
8	減 算 不 能 区 分	文字	8	“通常”または“減算不能” （コード表「項番1、減算不能区分コード」参照）
9	国 際 サ ー ビ ス 種 類	文字	36	国際サービス種類を設定 （コード表「項番6、非電話サービス種別」参照）
10	ご利用期間基本料等初日	文字	4	利用期間の初日（開始）および末日（締切）を設定 例：初日 10月01日 → “1001” 末日 10月31日 → “1031”
11	ご利用期間基本料等末日	文字	4	
12	国際通話料等初日	文字	4	
13	国際通話料等末日	文字	4	
14	検 針 日 前 回	文字	4	オールゼロを設定
15	検 針 日 今 回	文字	4	オールゼロを設定
16	予 備	文字	10	
17	国際通話料・今月分	数字	10	今月分の国際通話料を設定 例： 5, 250円の場合 → 5250
18	ご 請 求 金 額	数字	10	該当国際回線番号の請求金額を設定 例： 5, 250円の場合 → 5250 マイナス金額の場合、符号付編集 例：－1, 000円の場合 → -1000

次項へ続く

(2) 国際回線番号別内訳レコードの続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
19	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	再 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	内 訳 金 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を設定 マイナス金額の場合、符号付編集
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	20	消費税区分を設定 (コード表「項番3、税区分コード」参照) 例：“非対象等”等
20	請求内訳2～16			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は、最大17内訳までを本レコードに編集し、17内訳を超える場合は、「(3) 国際回線番号別内訳レコード2」に編集)
21	利 用 会 社 1 7	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 1 7	文字	3	
	請 求 内 訳 コ ー ド 1 7	文字	4	
	請 求 内 訳 名 1 7	文字	36	
	再 掲 表 示 1 7	文字	6	
	内 訳 金 額 1 7	数字	10	
	残 回 数 1 7	文字	3	
	税 区 分 1 7	文字	20	
22	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”

(3) 国際回線番号別内訳レコード2

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	国 際 回 線 番 号	文字	10	国際回線番号を設定（英数字混在での設定もあり） （項番5「国際回線番号について」を参照） 例：“100012301” “1000123AB”
2	定 期 分 割 区 分	文字	1	“0”を設定
3	デ ー タ 種 類	文字	2	“11”を設定
4	レ コ ー ド N O	文字	2	同一回線番号でのレコードNo.を設定 例：“02”～ “99”
5	レ コ ー ド 数	文字	2	同一回線番号でのレコード数を設定
6	ご 請 求 番 号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例：“0123456789”
7	部 課 別 コ ー ド	文字	6	お客様がご契約番号単位に設定した部課別コード 設定ありの場合：“000001”～ “999999”を設定 設定なしの場合：“000000”を設定
8	減 算 不 能 区 分	文字	8	スペースを設定
9	国 際 サ ー ビ ス 種 類	文字	36	スペースを設定
10	ご利用期間基本料等初日	文字	4	スペースを設定
11	ご利用期間基本料等末日	文字	4	スペースを設定
12	国 際 通 話 料 等 初 日	文字	4	スペースを設定
13	国 際 通 話 料 等 末 日	文字	4	スペースを設定
14	検 針 日 前 回	文字	4	スペースを設定
15	検 針 日 今 回	文字	4	スペースを設定
16	予 備	文字	10	
17	国 際 通 話 料 ・ 今 月 分	数字	10	ゼロを設定
18	ご 請 求 金 額	数字	10	ゼロを設定

次項へ続く

(3) 国際回線番号別内訳レコード2の続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
19	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	再 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	内 訳 金 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を設定 マイナス金額の場合、符号付編集
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	20	消費税区分を設定 (コード表「項番3、税区分コード」参照) 例：“非対象等”等
20	請求内訳2～16			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は最大17内訳までを本レコードに編集し、17内訳を超える場合は、「国際回線番号別内訳レコード2」[第3レコード(レコードNO“3”)以降]に編集)
21	利 用 会 社 1 7	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 1 7	文字	3	
	請 求 内 訳 コ ー ド 1 7	文字	4	
	請 求 内 訳 名 1 7	文字	36	
	再 掲 表 示 1 7	文字	6	
	内 訳 金 額 1 7	数字	10	
	残 回 数 1 7	文字	3	
	税 区 分 1 7	文字	20	
22	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”

(4) 請求書作成番号合計レコード

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	ご 請 求 番 号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例：“0123456789”
2	デ ー タ 種 類	文字	2	“51”を設定
3	レ コ ー ド N O	文字	2	同一ご請求番号のレコードNoを設定
4	レ コ ー ド 数	文字	2	同一ご請求番号でのレコード数を設定
5	部 課 別 コ ー ド	文字	6	オールゼロを設定
6	ご利用期間基本料等初日	文字	4	利用期間の初日（開始）および末日（締切）を設定 例：初日 10月01日 → “1001” 末日 10月31日 → “1031”
7	ご利用期間基本料等末日	文字	4	
8	国 際 通 話 料 等 初 日	文字	4	
9	国 際 通 話 料 等 末 日	文字	4	
10	検 針 日 前 回	文字	4	オールゼロを設定
11	検 針 日 今 回	文字	4	オールゼロを設定
12	予 備	文字	10	
13	国 際 通 話 料 ・ 今 月 分	数字	10	今月分の国際通話料を設定 例：100,000円の場合→100000
14	請 求 合 計 金 額	数字	10	請求書作成単位の請求金額を設定 例：100,000円の場合→100000
15	請 求 件 数	数字	8	請求書作成単位の国際回線番号数を設定 例：100回線の場合→100
16	金 融 機 関 コ ー ド	文字	7	口座振替の場合、金融機関コードを設定 口座振替以外は、スペースを設定
17	口 座 番 号	文字	8	口座振替の場合、口座番号を設定 口座振替以外は、スペースを設定
18	口 座 名 義	文字	40	口座振替の場合、半角カナ左詰めの口座名義を設定 口座振替以外は、スペースを設定
19	送 付 先 名	文字	40	請求書送付先氏名を半角カナ左詰めで出力

次項へ続く

(4) 請求書作成番号合計レコードの続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
20	利 用 会 社 1	文字	30	スペースを設定
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	スペースを設定
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	スペースを設定
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	スペースを設定
	再 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	内 訳 金 額 1	数字	10	ゼロを設定
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	20	スペースを設定
21	請求内訳2～16			
22	利 用 会 社 1 7	文字	30	スペースを設定
	内 訳 コ ー ド 1 7	文字	3	スペースを設定
	請 求 内 訳 コ ー ド 1 7	文字	4	スペースを設定
	請 求 内 訳 名 1 7	文字	36	スペースを設定
	再 掲 表 示 1 7	文字	6	スペースを設定
	内 訳 金 額 1 7	数字	10	ゼロを設定
	残 回 数 1 7	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1 7	文字	20	スペースを設定
23	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”

(5) 請求書作成番号合計レコード2

項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	ご 請 求 番 号	文字	10	お客様へ送付する請求書ごとに設定したコード 例：“0123456789”
2	デ ー タ 種 類	文字	2	“51”を設定
3	レ コ ー ド N O	文字	2	同一ご請求番号でのレコードNoを設定 例：“02”～ “99”
4	レ コ ー ド 数	文字	2	同一ご請求番号でのレコード数を設定
5	部 課 別 コ ー ド	文字	6	オールゼロを設定
6	ご利用期間基本料等初日	文字	4	スペースを設定
7	ご利用期間基本料等末日	文字	4	スペースを設定
8	国 際 通 話 料 等 初 日	文字	4	スペースを設定
9	国 際 通 話 料 等 末 日	文字	4	スペースを設定
10	検 針 日 前 回	文字	4	スペースを設定
11	検 針 日 今 回	文字	4	スペースを設定
12	予 備	文字	10	
13	国 際 通 話 料 ・ 今 月 分	数字	10	ゼロを設定
14	請 求 合 計 金 額	数字	10	ゼロを設定
15	請 求 件 数	数字	8	ゼロを設定
16	金 融 機 関 コ ー ド	文字	7	スペースを設定
17	口 座 番 号	文字	8	スペースを設定
18	口 座 名 義	文字	40	スペースを設定
19	送 付 先 名	文字	40	スペースを設定

次項へ続く

(5) 請求書作成番号合計レコード2の続き

項番	項目名	区分	桁数	内 容
20	利 用 会 社 1	文字	30	ご利用の会社名を表示 例：“NTTコミュニケーションズ”
	内 訳 コ ー ド 1	文字	3	内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 コ ー ド 1	文字	4	請求内訳コードを設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	請 求 内 訳 名 1	文字	36	請求内訳名を設定 (コード表「項番7、請求内訳コード」参照)
	再 掲 表 示 1	文字	6	スペースを設定
	内 訳 額 1	数字	10	請求内訳コード毎の金額を設定 マイナス金額の場合、符号付編集
	残 回 数 1	文字	3	スペースを設定
	税 区 分 1	文字	20	消費税区分を設定 (コード表「項番3、税区分コード」参照) 例：“非対象等”等
21	請求内訳2～16			2個目以降の請求内訳を示し、内訳が存在しない場合の編集方法は、「項番1 媒体作成条件」参照 (請求内訳は最大17内訳までを本レコードに編集し、17内訳を超える場合は、「国際回線番号別内訳レコード2」[第3レコード(レコードNO“3”)以降]に編集)
22	利 用 会 社 1 7	文字	30	
	内 訳 コ ー ド 1 7	文字	3	
	請 求 内 訳 コ ー ド 1 7	文字	4	
	請 求 内 訳 名 1 7	文字	36	
	再 掲 表 示 1 7	文字	6	
	内 訳 金 額 1 7	数字	10	
	残 回 数 1 7	文字	3	
	税 区 分 1 7	文字	20	
23	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”

(6) 会社合計レコード

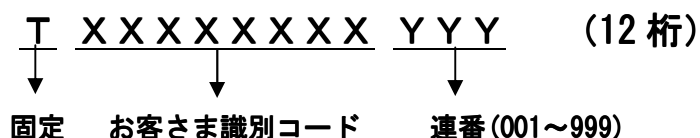
項番	項目名	区分	桁数	内 容
1	会 社 コ ー ド	文字	5	お客様を識別するコードを設定
2	デ ー タ 種 類	文字	2	“91”を設定
3	会 社 合 計 請 求 額	数字	12	会社コード単位の請求金額合計を設定 例：1000000円の場合 → 1000000
4	会 社 合 計 請 求 件 数	数字	8	会社コード単位の国際回線番号数を設定 例：100回線の場合 → 100
5	年 月 群	文字	7	年は西暦4桁、月は01～12、群は1～6 例：2001年8月C群 → “2001083”

6. 国際電話サービス契約の国際回線番号について

国際回線番号欄へは、お客さまとの契約番号である国際ID番号（12桁）を10桁に変換した国際回線番号が出力されています。

変換方法は、次のとおりです。

① 国際ID（お客さま番号）



※ 国際ID（お客さま番号）は、各種国際電話サービスご利用契約時、弊社にてお客さま識別番号として付与いたします。

② 変換方法

	変換内容等
T	出力しない。
X X X X X X X X	そのまま出力する。
Y Y Y	2桁に変換して出力する。

③ 「YYY」の2桁への変換方法

ア. 「001～099」の場合

10の位と1の位の数字をそのまま出力します。

「001～099」→「01～99」

イ. 「100～109」の場合

100の位と10の位を英字に変換します。

「100～109」→「A0～A9」

「110～119」→「B0～B9」

「350～359」→「Z0～Z9」

ウ. 「360～999」の場合

すべての位を英字に変換します。

「360～385」→「AA～AZ」

「984～999」→「YA～YO」

【変換例】

（変換前）

（変換後）

「T 1 2 3 4 5 6 7 8 0 0 1」	→	「1 2 3 4 5 6 7 8 0 1」
「T 1 2 3 4 5 6 7 8 1 2 3」	→	「1 2 3 4 5 6 7 8 C 3」
「T 1 2 3 4 5 6 7 8 3 8 6」	→	「1 2 3 4 5 6 7 8 B A」

注）：本頁に記載の内容については、「国際電話サービス」契約回線が対象となります。

「国際専用サービス」契約回線については、該当いたしません。